

今村復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見録
(平成28年12月26日(月) 1425～1433 於)宮城県仙台市)

1. 発言要旨

皆様、こんにちは。今日はもう年の瀬も押し迫った日ではありますが、今年最後の被災地視察ということで、こちらに参りました。

今日は大衡村、利府町、七ヶ浜町、多賀城市、仙台市を訪問いたしました。トヨタの工場でもありますとか、宮城スタジアム、あるいは「うみの駅七のや」、災害公営住宅、それから、蒲鉾工場、そして、この仙台港の視察等を行ったところでございます。最初に行ったトヨタの工場、本当に新しい工場で、しかも、いろいろな工夫をしながらいい車をつくっておられるなどということで、日本のものづくりの原点、あるいは改善という言葉に代表されるものをじかに見て、大変、感動いたしました。雇用についても、いろいろ関連企業を合わせると、2,000人近くということでありますし、これから、この東北の復興の生業の再生とっておりますが、産業の再生を含めて、大きな牽引力にこれからなっていたきたいなというふうに期待をしたところであります。

それから、その後、利府町のスタジアムのほうを見てまいりました。大変立派なスタジアムであります。是非今、サッカー等々、一つの話題になっておりますので、我々も全力を挙げて、これの開催ということで、いろいろな尽力をしていきたいというふうに思っております。

それから、多賀城市の復興拠点整備事業である、蒲鉾工場へ行ってまいりましたが、新しい工場で、しかもこの仙台らしい海の幸をうまく使った工場ということで、地域の特性を生かした、これからの産業といたしますか、そういったことでしっかりまた頑張ってもらいたいし、また、いろいろな形で我々がつくっております予算等もうまく使ってもらっているなどということで、大変うれしく思いました。

それから、この仙台港を見まして、まさにこの東北地方の拠点港ということで、これからしっかりまた後押ししていかなければいけないなど。ただ、一見したところ、ちょっと規模的に狭いんじゃないかなと、これから発展をしていくには、もう少しこれを拡大してやっていくことも、いろいろな使い勝手の面から必要ではないかなということを感じた次第でありまして、今後、地元のほうからもしっかり声を上げていただいて、我々も国土交通省等に対して、是非この復興、東北のために大事な拠点だからよろしくということを書いていこうというふうに思っております。

それから、生活関連であります。七ヶ浜の災害公営住宅、ここ

では、避難先から移られた方からいろいろなお話を聞いて、そしてまたいろいろな方が集まって、コミュニティの形成ということで、頑張っておられるということで、大変感動をいたしました。とかく風化しがちなこの皆さん方の暮らしぶりということでありますが、その都度、いろいろな新しい問題が起きてきますから、是非勇気を持って、また、希望を持って、皆さん、元気に暮らしていただけるように、我々もできるだけ、まさに現場に寄り添うという言葉がありますが、そういった形でしっかりとご支援をしてみたいというふうに思っております。

それから、うみの駅でも、食事も大変おいしいものをいただきましたし、私もしっかりと、魚とか何とか買い込んで、東京のお土産にしたいというふうに思っております。たくさん購入させていただきました。

いずれにしろ、今日の総括としては、いろいろ難しい中でしっかりと復興への足取りを強めておられる、さらに、これを加速化していきたいし、そしてまた、決して忘れてはならないのは、まだまだ大変苦勞しておられる方もいらっしゃるということでもありますので、みんなが一緒に道のりを頑張って歩いていくように、これからもしっかりと努力をしていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 大臣、就任されて、宮城に訪問をされたのは今回で6回目ということで、これまで最も印象に残っていることですか、強く感じられたこと、復興の歩みを御覧になっていかがでしょうか。

(答) やはり宮城県が、非常にローカルの部分と、それから、こういった内陸の工業地帯、コントラストがありますね。そういう中で、それぞれに復興の歩みを、その地域に合ったことで歩いておられるということで、大変私も力強く感じたところであります。

(問) 復興・創生期間1年目ということですが、これからの向けての抱負をお願いいたします。

(答) いろいろな基盤整備が少しずつ姿をあらわして、整ってきておりますので、そういったものをさらに追い風にして、これからいろいろな産業の再生、生業の再生、そういったことについてもさらにピッチを上げていきたいというふうに思っております。そしてまた、それにはやはり地元の皆さん方の熱意といたしますか、そういったものが一番大事だと思っておりますので、是非皆さん方、元気を出して、頑張ってくださいと。それに対して我々もしっかり応援をしていくということで、来年も進めていきたいと思っ

います。

(問) 今日、大臣は午前中、宮城スタジアムを視察されましたけれども、東京オリンピックの仮設施設の費用負担に関して、今日、宮城県の村井知事ですとか、関係自治体の首長さんが、組織委員会が負担するという原則を確認すべきといった要望書を提出されましたが、この件に関しての御所感をお願いいたします。

(答) 基本的にはそういうことで今日まで進んできたわけでありますから、知事さんたちがそういう声を上げられるのは、それは当然だと思っております。しかし、そうはいっても、これはオールジャパンである意味でやるような要素も多少はありますので、その辺をうまい具合に負担できる範囲で地元でもやってもらうことも少しは検討してもらってもいいのではないかなというふうには思いますけれども、しかし、これはそれぞれの事情があることでしょうから、是非この4者になるのか、3者になるのか分かりませんが、よく話し合いをしていただきたいと思いますと思います。

(問) 今の宮城スタジアムに関連してなんですけれども、復興五輪という冠がある中で、復興庁は地元自治体を応援する立場もあるかと思えます。復興五輪が実のあるものになるために、復興庁としてどういうふうに応援していきたいと思われませんか。

(答) それはいろいろな、これから具体的な、こういうふうにしてくれ、ああしてとか、どうだろうかという話が出てくると思えますから、それをしっかり受け止めて判断をして、またご支援をしていきたいというふうに思います。

(問) 間もなく、来年の3月で震災発生から丸6年を迎えます。先日、予算のほうも発表になりましたけれども、改めて震災6年目、7年目に向けて、復興庁の果たす役割をどのようにお考えでしょうか。

(答) 先程言いましたように、いろいろな形で基盤整備ができてきましたから、そういったものを生かして、是非産業の再生、あるいは生業の再生、そしてまた生活環境の改善と、ソフトの部分にしっかり力を入れていきたいというふうに思います。

(以 上)